

論文の内容の要旨

Urban Conservation Approach for a Multi Cultural Historic City – the Urban Planning and Design Perspective.

(Case Study on the Urban Conservation Guidelines for the Historic City of Melaka, Malaysia)

文化的多様性を持つ都市保存の方法論

—都市計画と都市デザインの展望—

(マレーシア歴史的都市保存マラッカの都市計画ガイドラインを事例として)

論文博士号

Syed Zainol Abidin IDID

アドバイザー:

西村 幸夫 教授

工学部都市工学科

東京大学

はじめ

保護は、発展に特定の結果があるために、常に注意されてきた。保護が、特に発展途上の世界の多くの部分で、進歩と発展への抑止力であると見られており、強い敵意がプロセスにある。最もひどく問題を作りさえするために「保存」が、同じ意味をもつ「維持」へ取り換えられ使用される。「維持」は、必然的に、当局によって常に努力がさらに彼らの特性をもつことから建物の所有者をコントロールし、制限することを示す停滞を暗示している。

マレーシアでの実行中の保護プログラムの大部分の一部は、現在の法律 Antiquity 198 法 (1976) に基づく。行為の性質は、記念碑でされる保存または博物館と Antiquity 部が保存とこれらに値すると考えられた建造物が通常 100 年以上の建物／記念碑だけに通常制限されると認められる古代遺物 (古代で歴史上の記念碑、考古学的なサイトと歴史の物) の保護 (支配と維持) を定める。198 法が持つ法の規制はその歴史で美的な価値の前後関係で非常に重要であるものを含むだけであるために建物の選択を制限した。そして、それらを他の市民が建造物を所有し、たとえ彼らが等しいメリットを持つ

としても、私的に所有されることを避けた。この理由は単純である。これらの大部分の建造物の保存をカバーするための不十分な処置が、198 法が制限する法の中で供給私有財産、更には国の肥沃な文化的な遺産の一部として彼らの所有物を節約することによりどんな役割でも演ずる資産のオーナーの不本意なことの権威者による干渉の手段があった。

強調の欠如が『地域保存』にある。そして、保存の焦点は単に「記念碑の一つの部分」の前後関係を組み込むことに集中するのみである。保存について関連した権威者による強調は、コミュニティの利益の問題に関して、取引が欠如している。そして「重要な『場所』を構成する要素（具体的で無形の形式）を保存する場所制作」指針による面倒に関して扱うことが不足する。

この状況において、保存は一般に最適の利益が文化的な資産を補充する際に、そして、流れと将来の世代の利益の「場所」の強化のために参照されることを確実にするために目的がある計画と管理プロセスとみなされなかった。

したがって、都市保護へのアプローチにおいてそれを伝達することが重要である。第一の目的は、物理的である文化的な資源、またはその破壊と荒廃を避ける最初の人物は人間の活動に関するものであるということである。第二に、それを確実にするために、新しい情勢のセッティング、スケールまたはサイズとデザインを、発展支配の厳しい都市計画プロセスによって重要な特徴を保護するために、調和して既存の都市ファブリックと行動の実行に混ぜ合わせることである。保護の主な目的が都市システムの品質と効率を改善する努力において重要である場所、または建物を改善するために理解されるならば、現在の憤慨はどうか、弱められることができる。最も重要なことは、保存が一つの建造物、しかし、実際全ての「場所のイメージ」に対処するために制限するだけではないと理解するよう当局へ持っていくことである。

保護アプローチと計画展望

マレーシアでの都市保護の主な欠点は、いろいろな投資家が都市保護の役割を認める矛盾した方法によって仮定されている。彼らは、保護がとりわけ指示されることを知ることができなかった；文化的な重要性（すなわち全ての近所、部分または全町さえ）とその場所を維持することは、新旧の友好的な関係を確実にすることへ集中される。都市保存を成し遂げることで一般のゴールへの鍵は、多くのマレーシアの古い町のケースのように、「生活都市」で問題の複雑さに取り組む方へ、適切なアプローチの理解においてある。ガイドラインは特に「活気」を強化し、荒れた市街化区域がかつて特定の町の中心であったという面で、特に不足している実際的な保護の発達のための原則となっている。

公共の認識は、保護のプロセスの肝要な部分でなければならない。市民は、第一に保

存が何について全てであるか、そして、彼らがその開発が彼らの利益へ伝達されることを確実とすることに対してどんな役割を演ずることができるかを理解しなければならない。都市環境の急速な変化は、ここまで、その方へ冷淡なままになっている市民と、市街化区域の性格に影響を及ぼした。

事例研究としてのマラッカ

マラッカを事例研究に選んだ正当性は、それがマレーシアでの都市活動の長くユニークな歴史であるからである。それは都市問題の複雑さとして都市保護アプローチの前後関係を示す都市の問題、そして、現在の議論されている大量な議論を実践する。マラッカがまた、「生活遺産都市」と同じカテゴリーの下で世界遺産にリストされるために争っており、いくらかの誠実な努力が遺産を保存する権限によってなされていることを示すために、行動を促進する権限についてより多くの理由がある。

マラッカの「保護ゾーン」のための『都市保護ガイドライン』は 2002 年 12 月に導入された。そして、それは都市保護と活性化に関して問題の重大さをカバーしている。この論文でははっきりと、これらのガイドラインにおいて正当性を説明するように指示されており、そして、特徴を示すことは「生活都市」の一部を節約する際にダイナミックなアプローチを指示したものである。そして、それは現実では無形の実体である。

マラッカでの地域が都市の古い管理上、商業的で住居の四半期を含む研究は、ポルトガル人（1511～1640）、オランダ人（1641～1824）、イギリス人（1825～1942、1945～1957）によって以降の植民地の干渉を通し、15 世紀のサルタンの地位から発達した。これらの植民地の干渉の間の多種多様な影響は、場所に物理的で社会的特質のユニークな並列をもたらした。

研究目的

都市保護のアプローチへのコンセンサスは、関係する各党には明らかに多様な目的を達成するねらいがあり、遺産状況と手段を解釈する際にユニークな方法を取り、得るのが難しい。それをより難しくしたことは、「保護ゾーン」で生活しているそれらの人々の活動（公式と非公式）、ふるまい（ライフスタイル）、優先権（選択の余地）と抱負の複雑さを含む潜在的な問題を確かめ、これらとの結合を招く当局の無能が「構造上の遺産」を保存することに特定の関心でこれらの要因の関係を引き起こすためである。

論文の狙い：

欠点を克服している実際的なアプローチの発達に対する貢献として、「生活都市」の

状況に適用できる古した都市保護でありえる基準を例示し実践する都市保護へたどり着き、マレーシアでの事例を他の「生活都市」のケースに適用する際に関連させる。

目的：

- 遺産のために主な原則を議論するために、保護への流れは「生活都市」のために都市保護の前後関係を理解するために、一般的な背景としてマレーシアにおける都市の保存と彼らの欠点の上でアプローチする。
- 都市計画を例示し、マラッカ市役所会議「複数文化的な歴史的な生活都市」の歴史に残る市の保護地帯のためのガイドラインの公式化で使われる理論をデザインする。
- 遺産の保護に関して適当な法律が不足するシステムでは、既存の都市計画とデザインメカニズムが、特に発展支配の前後関係で、十分に都市遺産を保護し、維持するところの使用法でありえることを示す。
- 都市保護管理の適当な前後関係を示すために、他の「生活遺産都市」のための都市保護のデザイン基準として、マラッカ市役所会議の歴史に残るシティの保護地帯のためのガイドラインにおいて使用された「生活都市」のためにアプローチする。

論文の一般的な範囲は、2002年に準備されたマラッカ市役所の保護地帯の歴史に残る市のために活動地域計画の前後関係を合理化することを含んだ。これは、都市の多量の具体的で無形の遺産資源を考慮に入れている「歴史的な都市」としてのマラッカを保存するガイドライン上の先例となる文書であった。正当性についての適当な理解なしで、それがガイドラインを考案して配置されたことは明瞭である。それらの実施、全ての投資家の関心により説得力がないようである。論文の範囲は、8つの別々の章をまとめ、以下の3つの部分で最も特徴を述べることができる：

パート1：以下の議論から成る；問題の声明と主な強調としてマレーシア、特にマラッカで「都市保護」の話題を明白に示している問題。この部分の文献レビューは、現在の考えと特に「生活遺産都市」を保存する状況を強調している都市の保存の強調をハイライトした。マレーシアの都市計画の一般的なチェックが再び行われ、保護はマラッカ「都市保護」ケースの背景と同様に実践されている。特に関連都市「生活遺産」へのその関連性の状況が関係している都市保護、そうであった条例、ガイドラインと手順を論評した。

パート2：1400年代から現在までの前後関係まで形態的な成長を通して、それを導入し、事例研究域の背景情報から成っている。後半部分は、マラッカ都市保護ガイドラインの公式化のために建築計画と正当性で案出される戦略を発表する。このセクション

は、マラッカ市歴史議会の保護活動地域計画 2002 に置かれたガイドラインの各々の後で、正当性を議論した。

パート 3 : 提案を含む ; 首尾一貫したアプローチと共有地が都市保護に関して一般的な投資家と政策立案者の目的達成を成し遂げることにおける方法について。それは、保護地域の地元の居住者の間により大きな「帰属意識とローカルな誇り」を達成する際に都市デザインアプローチを通し、都市環境のより良い品質を成し遂げる方へのアプローチ方法を記述した。この部分も、地域に対する遺産への関心を保護する方へ最も感情の療法として、計画アプローチと手順を明記した。

パート 4 : 一般的な結論は、論文を要約するために整列する。「生活遺産」の状況についてのいくつかの観察は、既に批評における重要な要因として分析された。これは、遺産特性を管理することに関し、干渉のより助けとなり結合力があるシステムを公式化、考案するのを補助した。

結論

「生活遺産」を保護する適切な運動での投資家との間で気づかないことの状態は、保護を管理するのが難しいマレーシアでマラッカと大部分の他の都市で研究されている。都市遺産は、彼らのある地域に特有の文化とライフスタイルを通じ、人間の活動の段階的な仲裁から長年にわたって現れた都市環境の具体的で無形の構成要素の間の相互関係の非常に複雑なネットワークの合成セットアップである。それを分離できなくし、全部の実体として調べられなければならない遺産の具体的で無形の構成要素の強い共存関係がある。

「生活遺産都市」を保存することへのアプローチはマラッカにあり、利益にこの相互関係に構造上、または建築保護だけが「場所の精神」の維持へ価値を与える際、ヘルプを持っていかなければならない。このように都市の中で活動の最終的な低下を作り、その「身体的な」構成要素で、都市環境の「生きた」構成要素を実際分離する。

要点は適当な遺産法律なしでさえそれを示すことができる。適当な計画の使用は計画法が十分にそうすることができる「Town Country」の既存の供給において戦略を制御し、都市遺産を保護する使用で十分にある。論文は、マラッカ都市の事例研究の中の「生活都市」の適切な状況が都市保護の基準を公式化する焦点を確認する手段として使われることができることを示した。それはプランナーのための役に立つ道具でありえる、都市保護の自然を理解し、都会に住むデザイナーと建築家は「生活歴史的な都市」に照らし、特に計画プロセスにおいて実践する。